

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音 1F		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 12月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員が心地よく働ける環境環境作りが利用者様への細かなサービスや温かみのあるケアに繋がって行くと感じています。看取りも行う状況になってきていますので、更に、1日1日を大事に利用者様、職員共に大事にメリハリのある時間を過ごしていきたいと努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

個別ケアを根幹とした「その人 そのために」の企業信条は職員に浸透し、利用者を優先に考えた温かな対応をしている。管理者が地元住民のため地域の状況を理解し、地域との繋がりを大事にしている。運営推進会議の年間計画を自治会に出すと女性部の中から交代で数名ずつ割り振りをしてくれ、自治会三役・顧問・監事などが毎回参加し地域密着型の事業所として地域の高齢者の相談や、推進会議後に防災訓練を行い地域の役員に見てもらうなどの試みをしている。1階と2階の利用者同士の交流は日常的にあり、調査日に利用者同士でカルタをしている時に、お互いに褒めあったり気遣い姿が見られた。管理者と職員は信頼関係で結ばれ、産後も働き続ける職員や開所当時から職員など定着率が高く介護福祉士有資格者も多い。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域に繋がる理念のアイデアを出し合いその中から色々な言葉を集め作りました。日々申し送り時に会社の企業信条と共に復唱しています。	「地域と育む暮らしの和 元気良く 笑い声響くわが家 わが町」の理念は5年前に全職員で話し合っ作り新人研修時に地域との関係作りの大切さを伝えている。企業信条、理念は玄関や事務所・廊下など目の届くところに掲示しており、職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と近くのお店に買い物に出掛けたり回覧板を届けたり散歩の途中やホーム前に出ていると声をかけられたりします	自治会をはじめ住民は事業所への応援、理解がある。自治会の行事へ参加や、事業所の祭りに子供連れでの参加があるなど交流し、近隣から野菜やバスタオル等の差し入れがある。恒例になっている中高生との交流や地域ボランティアの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し毎回地域の方々に参加して下さり、そのつながりも有って入居相談を頂く事も有ります		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告などお伝えして、ご参加の方々から質問やアドバイスなどを頂きます	自治会の総会に年間計画を持参し、自治会役員・女性部など地域代表が会議に多く参加している。地域の高齢化による相談があり話し合うなど、地域密着型を活かした会議になっている。議事録はホームページで公表している。家族の参加はあまりない。	議題の工夫をし、家族の参加が得られ、意見がサービス向上になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取りながら協力をお願いしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し、拘束は行っていません	職員はホーム内研修を受け、拘束を理解している。玄関・扉に施錠はなく、外に出たい人には職員が連携し、本人の意向を尊重しながら気が済むまで一緒に出かけている。スピーチロックに気付いた時はその場ではなく、同じような状況の時に管理者から注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同志、意見を交わしながら防止に努めています		

静岡県(グループホーム草薙織音 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の個人の必要性に応じて対応しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面をお渡しして説明し、ご理解、納得された後にサインを頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価実施、意見箱設置、ご家族様ご面会時に状態や状況などお話し、ご相談があればその都度対応しています	管理者・職員は家族の面会時に状況を話しながら、意見、要望を聴けるように声掛けをしている。聞いたことは申し送りで伝達し、内容により記録して検討している。靴のサイズが合わなくなっているようなど身の回りのことが多く、運営に関することは少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ホーム会議を実施、カンファレンスも必要時に開催し意見を出し合っています 以外にも必要があれば、開催します	各委員会です事前に話し合い定例会議に提案し検討した後、反映する仕組みがある。日常的に職員は管理者に気軽に気付いたことを話している。必要な物品は冷蔵庫のホワイトボードに記入し、管理者が見て対応するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回管理者会議を本社にて開催し、ホームの状況や職員の状態などの報告をしています。本社のセルフストレスチェックも実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得の研修参加、ホーム内での職員主導の研修会、ホームDrの研修会実施など		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の主催で3か月に一度、有度地域のグループホームを対象に情報交換を実施しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様との面談にて色々お話を聞きながら、希望や、訴えを傾聴してプランを立てて、職員と共有して達成できるようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのお話を細かくお聞きして、希望に添える様にプランを立てていきます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居1か月でプランを見直し、入居時の希望に添っているか、今後の必要なプランも合わせて考えていきます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で一緒に家事をしたり、買い物のお手伝いをして頂いたり、食事や入浴時にもコミュニケーションをとりながら過ごしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告やご面会時など、ご家族に状況などをお伝えし、ご家族からもご要望等お聞きしています。必要であればお泊りもして頂きます		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御親戚やお友達などご面会は自由にして頂き、愛犬と一緒に暮らす事が出来ます	面会者にお茶を出し居室でゆっくり過ごせるよう支援している。家族と馴染みの店に食事に行ったり、理美容院に行く人がいる。帰宅願望の強い人が家族と馴染みの場所や自宅の近所を廻ってくることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の交流を大事にしています。1・2Fの利用者様共にご本人の意思を大事にしながらレクレーションを実施したり、各ユニットでも利用者様同士の雰囲気懸念される時は階を移動したりして空気を変えます		

静岡県(グループホーム草薙織音 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去にご相談があれば支援に努めさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者様のお話や訴えをお聞きして出来るだけ思いを受け止められるように努力しています。ご本人の行動などからもくみ取れるように職員間で話し合っています	居室で1対1になった時お茶を出し話を聴いたり、外食で寄り添いながら話をして思いを受け止めるようにしている。新聞を読んでいると話題を振って会話を膨らませ引き出すなど把握に努めている。困難な人にも必ず声を掛け表情や仕草から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントをとり今までの生活状況を把握して、ご家族様や友人の方からも情報を聞くことが出来ています。ご本人との会話の中からも伺う事が出来ます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や、関わりを通してその方の状態の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施して状態に添った計画に努め、変化も見ながらその都度、話し合いケアの方法など意見を出し合います	状態に変化があった場合は、医師・家族・管理者が方針について話し合い、それを基に職員でカンファレンスを行い、計画担当者が現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を関わりで記録し、支援日誌からケース記録を参照し詳細を把握します。申し送りノートなども活用して情報を共有統一しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に変化が見られた時など、その都度、話し合っって方向を考えます		

静岡県(グループホーム草薙織音 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園の生徒さんたちが年間を通して行事の時に訪問して下さり、他のボランティアさんたちの協力も頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前よりのかかりつけ医、新たな提携医の往診により診療して頂いています。入所時に提携医からの説明もあり御家族様納得の上で支援をしています	提携医は毎日往診があり、継続している主治医も往診に切り替えている。結果は月次報告で家族に知らせている。家族の関わりを大事にしたいと家族が連れて受診している人がある。協力歯科医は近所にあり職員と行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師より健康チェックをお願いし、個々の利用者様へのアドバイスも受け必要時には実践しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換は常に出来る様に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、かかりつけ医、提携医、訪問看護師と共に良い支援が出来る様に連携をとっています	前回看取りを目標達成計画にあげ、訪問看護師による研修を受けた。入居時に看取りについての指針を説明している。家族の希望があって医師が看取りと判断した段階で同意書をもらい、計画作成や職員の話し合いをしていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修、ケア会議開等での勉強会、実際の現場での経験などを活かしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練や、会議の後に動きのシミュレーションを実施、日中の地震想定訓練、夜間訓練などしています	年1回は消防署指導の下、2階の車椅子利用者をベランダに集め、消防のはしご車で避難するなど指導を受けている。年2回の訓練の他に職員定例会後に不定期で夜勤者の動きのシミュレーションを条件を変えて行っている。地域の役員が多く参加する推進会議の後にも訓練を実施した事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方、その方に合わせた丁寧な声掛けを し対応しています	職員は相手・状態によって求められる受け答えを する時もあるが、基本は年長者として尊重したそ の人に合わせた穏やかな対応をしている。書類な どは鍵をかけたロッカーに入れ管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	その方の希望や決定を出来る限り傾聴して います		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のプランに添って、その方に合っ た支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	毎回、同じ服にならない様に気を付け、出来 ない方には一緒に選んだりして頂く事も有り ます。ヘアースタイルも定期的を実施していま す		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の時は、間、間に職員が入っています。 その方に合った食事形態にして召し上がり やすくしています。出来る方はご自分で下膳 され、片付けも手伝って頂いています	週1回利用者と一緒に食材の買い物に行き、毎食 職員が前日の献立や冷蔵庫の材料を見て調理 し、職員は同じ物を一緒に食べている。必要に応 じ声掛けはするが、介助なくゆっくり自分のペー スで食事をしている。外食や外でおにぎりなど楽し める工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事、水分摂取を支援 しています。嗜好など把握しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。出来な い所は介助させて頂いています		

静岡県(グループホーム草薙織音 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の時間を見ながら、声掛けをしています。尿意が難しい方にはその方に合わせて誘導をしています。すべての方をトイレ誘導しています。	布パンツ・リハビリパンツを使用し、排泄チェック表により声掛け誘導してトイレで排泄している。自立の人が利用した後はさり気なくトイレ内の確認をしている。夜間もトイレ誘導しているが、本人の意向でオムツにしている人のパッド交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルトをお出しして、スポーツドリンク、寒天で水分ゼリーを作り召し上がって頂きます。便秘にはセンナ茶を作っておき飲んで頂きます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調面に気を付けながら無理のない様に入浴しています。ご本人が決めて入られる方もおります。必要時にはスタッフが二人で介助します。	概ね週3回、1日おきに入浴する人もいます。高齢の人の入浴による負担を考慮し週2回シャワー浴で対応している。特に拒否する人もなく本人の意向を尊重しながら援助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢の多い方や、体調面を診ながら午前。午後に静養の時間を30～40分ほど作っています。不眠の場合は原因を考えDrなどにも相談しています。日中の運動や日光浴なども取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がない様に、服用前には名前と袋を確認し、飲み忘れがないか袋をスタッフ同士で確認し合います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、1F・2Fの利用者様同士、希望の方が合流して午前中に体を動かしたり、歌ったりと楽しんで参加して頂いています。その方が出来る事に力を発揮して頂いています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気の良い日を見て周辺の散歩や車での買い物、ドライブ、外食等実施しています ご家族も来て、ご一緒に散歩や食事に出かけて下さることも有ります。	歩いて近くの店や無人販売所に買い物や散歩に行ったり、隣のレストランに外食にでかけている。玄関の前の椅子に座り日光浴をしながら、お茶をしたり、おにぎりを食べたりすることがある。外出のきっかけ作りにプランに載せて、職員とビールを買いにいくな人がいる。	



静岡県(グループホーム草薙織音 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて全員のお小遣いを管理しています。ご本人のご希望があれば職員と一緒に買い物に出掛けます。ご本人が現金を所持する事はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の、ご希望があれば電話やお手紙など対応します		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清掃を小まめに行い、利用者様の居室は日々の清掃に加えて担当者が対応しています。利用者様に切って頂いたウエスを使用し使い捨てにしています。利用者様と一緒に貼り絵やお習字などで季節感を出しています。	管理者は「目で見える第一印象を大切に」と転倒予防に整理整頓、床等の汚れやすいところの清掃を職員に伝え実践している。臭気・湿度に配慮し、加湿器は多く設置され、換気とお香で不快な臭いはない。季節を感じる飾り物が玄関や壁に飾ってある。調理中も厨房から全体が見渡せ、美味しい匂いが漂って、時間の見当や食欲も出る空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置いて季節に応じて使用しています。居間のソファも利用し足を延ばしたりとゆったりして頂きます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを置いて安心感を持って頂ける様に、お泊りのご希望のご家族には簡易ベットを用意しています。	歩行不安定な人に手すり代わりに車椅子等を置くなど状態により配置に工夫している。昔活躍していた時の写真や神棚、ソファやテレビ等を持ち込みその人らしい居室になっている。居室担当職員が家族と話し合い、衣替えの衣類や不足の物を揃えるようにしている。各居室の入り口に判りやすいよう担当職員が工夫した飾りを掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面場や、脱衣所など安全の為に椅子を置いてあります。個々の物もわかりやすく置いてあります		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202502		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音 2F		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が心地よく働ける環境作りが、利用者様への細かなサービスや温かみのあるケアに繋がって行くと感じています。看取りも行う状況になってきていますので更に、一日一日を大事に利用者様、職員共にメリハリのある時間を過ごしていきたいと努力しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域に繋がる理念のアイデアを出し合いその中から色々な言葉を集め作りました。日々申し送り時に会社の企業信条と共に復唱しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と近くのお店に買い物に出掛けたり回覧板を届けたり散歩の途中やホーム前に出ていると声をかけられたりします		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し毎回地域の方々に参加して下さり、そのつながりも有って入居相談を頂く事も有ります		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告などお伝えして、ご参加の方々から質問やアドバイスなどを頂きます		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取りながら協力をお願いします		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し、拘束は行っていません		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同志、意見を交わしながら防止に努めています		

静岡県(グループホーム草薙織音 2F )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の個人の必要性に応じて対応しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面をお渡しして説明し、ご理解、納得された後にサインを頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価実施、意見箱設置、ご家族様ご面会時に状態や状況などお話し、ご相談があればその都度対応しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ホーム会議を実施、カンファレンスも必要時に開催し意見を出し合っています 以外にも必要があれば、開催します		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回管理者会議を本社にて開催し、ホームの状況や職員の状態などの報告をしています。本社のセルフストレスチェックも実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得の研修参加、ホーム内の職員主導の研修会、ホームDrの研修会実施など		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の主催で3か月に一度、有度地域のグループホームを対象に情報交換を実施しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様との面談にて色々お話を聞きながら、希望や、訴えを傾聴してプランを立てて、職員と共有して達成できるようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのお話を細かくお聞きして、希望に添える様にプランを立てていきます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居1か月でプランを見直し、入居時の希望に添っているか、今後の必要なプランも合わせて考えていきます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で一緒に家事をしたり、買い物のお手伝いをして頂いたり、食事や入浴時にもコミュニケーションをとりながら過ごしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告やご面会時など、ご家族に状況などをお伝えし、ご家族からもご要望等お聞きしています。必要であればお泊りもして頂きます		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御親戚やお友達などご面会は自由にして頂き、愛犬と一緒に暮らす事が出来ます		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の交流を大事にしています。1・2Fの利用者様共にご本人の意思を大事にしながらレクリエーションを実施したり、各ユニットでも利用者様同士の雰囲気懸念される時は階を移動したりして空気を変えます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去にご相談があれば支援に努めさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者様のお話や訴えをお聞きして出来るだけ思いを受け止められるように努力しています。ご本人の行動などからもくみ取れるように職員間で話し合っています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントをとり今までの生活状況を把握して、ご家族様や友人の方からも情報を聞くことが出来ています。ご本人との会話の中からも伺う事が出来ます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や、関わりを通してその方の状態の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施して状態に添った計画に努め、変化も見ながらその都度、話し合いケアの方法など意見を出し合います		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を関わりで記録し、支援日誌からケース記録を参照し詳細を把握します。申し送りノートなども活用して情報を共有統一しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に変化が見られた時など、その都度、話し合っって方向を考えます		

静岡県(グループホーム草薙織音 2F )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園の生徒さんたちが年間を通して行事の時に訪問して下さり、他のボランティアさんたちの協力も頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前よりのかかりつけ医、新たな提携医の往診により診療して頂いています。入所時に提携医からの説明もあり御家族様納得の上で支援をしています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師より健康チェックをお願いし、個々の利用者様へのアドバイスも受け必要時には実践しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換は常に出来る様に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、かかりつけ医、提携医、訪問看護師と共に良い支援が出来る様に連携をとっています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修、ケア会議開等での勉強会、実際の現場での経験などを活かしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練や、会議の後に動きのシュミレーションを実施、日中の地震想定訓練、夜間訓練などしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方、その方に合わせた丁寧な声掛けをし対応しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の希望や決定を出来る限り傾聴しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のプランに添って、その方に合った支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎回、同じ服にならない様に気を付け、出来ない方には一緒に選んだりして頂く事も有ります。ヘアースタイルも定期的を実施しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は、間、間に職員が入っています。その方に合った食事形態にして召し上がりやすくしています。出来る方はご自分で下膳され、片付けも手伝って頂いています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事、水分摂取を支援しています。嗜好など把握しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。出来ない所は介助させて頂いています		



静岡県(グループホーム草薙織音 2F )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の時間を見ながら、声掛けをしています。尿意が難しい方にはその方に合わせて誘導をしています。すべての方をトイレ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルトをお出しして、スポーツドリンク、寒天で水分ゼリーを作り召し上がって頂きます。便秘にはセンナ茶を作っておき飲んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調面に気を付けながら無理のない様に入浴しています。ご本人が決めて入られる方もおります。必要時にはスタッフが二人で介助します。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢の多い方や、体調面を診ながら午前。午後に静養の時間を30～40分ほど作っています。不眠の場合は原因を考えDrなどにも相談しています。日中の運動や日光浴なども取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がない様に、服用前には名前と袋を確認し、飲み忘れがないか袋をスタッフ同士で確認し合います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、1F・2Fの利用者様同士、希望の方が合流して午前中に体を動かしたり、歌ったりと楽しんで参加して頂いています。その方が出来る事に力を発揮して頂いています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気の良い日を見て周辺の散歩や車で買い物、ドライブ、外食等実施しています ご家族も来て、一緒に散歩や食事に出かけて下さることも有ります。		

静岡県(グループホーム草薙織音 2F )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて全員のお小遣いを管理しています。ご本人のご希望があれば職員と一緒に買い物に出掛けます。ご本人が現金を所持する事はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の、ご希望があれば電話やお手紙など対応します		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清掃を小まめに行い、利用者様の居室は日々の清掃に加えて担当者が対応しています。利用者様に切って頂いたウエスを使用し使い捨てにしています。利用者様と一緒に貼り絵やお習字などで季節感を出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置いて季節に応じて使用しています。居間のソファも利用し足を延ばしたりとゆったりして頂きます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを置いて安心感を持って頂ける様に、お泊りのご希望のご家族には簡易ベットを用意しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面場や、脱衣所など安全の為に椅子を置いてあります。個々の物もわかりやすく置いてあります		